

議 事 録

会 議 名	第 1 回 淡路市都市計画マスタープラン策定会議
開催日時	令和 6 年 12 月 2 日 (金) 18:00～20:00
開催場所	淡路市役所 1 号館 大会議室 1・2
出席委員	13 名
事務局	都市計画課、㈱地域計画建築研究所
協議事項	1 都市計画マスタープランの基本的事項について 2 淡路市都市計画マスタープラン見直し方針について 3 淡路市の都市づくりに対する問題意識について 4 市民、事業所意向調査の実施について
会議資料	別紙 1 都市計画マスタープランの基本的事項 別紙 2 淡路市都市計画マスタープラン 見直し方針 (案) 別紙 3 淡路市都市計画マスタープラン 市民、事業所意向調査の実施について

発言者	協 議 内 容
事務局	1 都市計画マスタープランの基本的事項について 【別紙 1 の説明】
座 長	○ 都市計画マスタープランは、今から 20 年後を見通した上で、これから 10 年間、都市づくりとして何を進めていくかを考える計画である。計画策定の期間は 3 年ではあるが、最終年度は関係機関との調整等を行うので、実質的には今年度の残りと来年度で進めていく予定である。 ○ 都市計画は、個人の土地・建物等の財産に影響を及ぼすものであり、行政が一方的に決めることは難しい。淡路市では開発・保全、人口減少等の問題がある中で、どのように都市づくりを進めていくかを考えるためにも、この 2 年間の策定会議は必要なプロセスである。 ○ 今回は初回ということもあり、説明の中でわかりにくい点や補足してほしい点等あれば挙手をお願いしたい。
事務局	2 淡路市都市計画マスタープラン見直し方針について 【別紙 2 の説明】
座 長	○ 見直し方針案については、このような考え方で都市計画マスタープランの見直しを進めていくという説明であった。ご意見・ご質問があれば、挙手をお願いしたい。

委 員	○ 都市計画マスタープランは、今年度が初めてではなく、5年程前に策定されている。5年前の計画がどうだったのかの検証が必要ではないのか。
事務局	○ 平成27年度に現行計画が策定された。現行計画の検証は、今作業を進めている状況であり、どれができていてどれができていないかを、市役所の関係課にも確認する。その結果については、次回の会議で報告させていただく予定である。
3 淡路市の都市づくりに対する問題意識について	
座 長	○ 現状の課題と将来的な課題について、具体的な地域や市全体でも良いので、委員の皆様よりご意見をいただきたい。
委 員	○ 北淡路は、緑地が集積しているのが特徴であり、5～10年前に、花緑ネットワークで、ガーデンツーリズム等の観光事業を展開してきたが、2年程前にコロナの影響もあり、終えてしまったという状況である。 ○ 公園が集積していることは、本市の強みであると考えており、観光振興に活かせると考えている。 ○ 一方で、市民生活目線で見ると、これまでは学校団体や家族が、公園でレクリエーションを楽しむことが多かったが、公園の商業化が進んだこともあり、行きづらくなったという声も聞いている。 ○ 大きな公園だけでなく、身近な緑地にどのように市民に触れあってもらえるかも課題である。大きな公園・緑地をうまく使いながら、身近な緑地につなげる空間づくりが大事だと考えている。 ○ 明らかに老朽化している便益施設や、便益機能が集積しているエリアにもテコ入れが必要であると考えている。郡家にもいろんな整備に力を入れても良いだろう。
委 員	○ 今後の課題としては、3点気になっている。 1つ目は教育である。この視点は都市計画よりもさらに上位にある福祉的な考えとして、押さえておく必要があると思う。国の統計では、11年連続で不登校者数が増えており、全国で34万人程となっている。子どもが健全に育つための都市整備について、検討していきたい。 2つ目は高齢化である。国の統計では、2050年には単身世帯が44%になるというデータもある。ほとんどが単身世帯になった際に、移動等の問題が深刻になるだろう。 3つ目は住民参加のまちづくりである。現行の都市計画マスタープランの検証の際には、各地域のまちづくり協議会の実態等、住民参加のあり方がどうであったかについても検証していきたい。 ○ 津名IC付近や東浦地域等で、生活道路が整備されておらず、危険な状態である。県にも要望を出しているが、中々整備が進められない現状もある。都市マスの改定に当たって

	は、生活の道路と観光の道路、自転車道等の整備を充実させることが観光地としても大事であると感じている。
委 員	○ 岩屋のここ数年の現状は、阪神間に市内で一番近く、利便性が高いのにも関わらず、人口減少が激しい状態である。昔から高校進学に当たっても、明石の公立高校に通学する人が多く、働くにあたっても、明石、神戸に通勤する方が多い。 ○ 都市計画マスタープランの改定に何より期待したいのは、若い人がこの計画を見て、夢を描き、こんな淡路市に住んでみたいと思えるような計画にしていきたいということである。 ○ シアトルやサンフランシスコでは、基本的にお金を持っている方は、自然豊かなところに住み、都会で働くというライフスタイルが一つのステータスとなっている側面がある。 淡路市も、150万人余を抱える神戸市や、隣の明石市と人口の取合いではなく、淡路に住んで、神戸や明石で働くというライフスタイルが定着してもよいと思う。そのためには、淡路市に住んでいるという誇り・愛着を醸成していくべきであると思う。
委 員	○ 西海岸は、観光客向けの店舗が増加し、観光客も増えている、住民の中には、土日になると県道に出づらいというような声もあるので、道路の拡幅を検討してほしい。 ○ 防災面では消防団も減ってきている。住民が自主防災組織を立ち上げて、地域は自分たちで守るという感覚で取り組んで欲しいと思う。他都市では、自主防災組織を96%くらい立ち上げているところもある。
委 員	○ 尾崎地区では、観光客増加の影響もあり、店舗が多く増えてきている。旧尾崎小学校跡地を開発し、食・アート・学びの複合施設を上手に展開している。 ○ 尾崎地区の反対にある山田地区では高齢化が進んでおり、小学校も廃校となり、運動会等のイベントもなくなる等して、住民のつながりが希薄になっている状況である。 ○ 高齢化も進み、老人会も解散し、次の担い手もいなくなっている。世代交代に当たり、指導者がいないのは特に問題であるので、補助金をいただきながら援助したい。 ○ 町内会としては、つながりをつくるために、祭りのだんじりは大切にしていきたい。補助金もそこに全て充てている。その他、会館の周りを綺麗にしたり、花を植えたり等の活動を進めており、周りに波及させていきたい。 ○ 観光客の受け入れについて、一部の地域では、土日に県道に出られないので困っている。特に、新しく店舗が出店したところの住民の声が非常に多い。高速料金を下げること、四国に向かう車が下道を通るのを防ぐような施策をしてほしい。
委 員	○ 子どもの通学路と通勤で車が通る道が重なるところがあり、子どもが危ないので安全対策を進めてほしい。 ○ 市指定のゴミ袋は、観光客は買うことができないので、ゴミを畑等に捨てる人がいる。市指定のゴミ袋はやめ、金属とガラス以外は全て燃やせるような焼却炉を整備してほしい。

委 員	○ アンケート調査の結果によって、今後都市計画区域の変更を検討することはあり得るのか。 ○ アンケート調査の結果をとりまとめた上で地域別の住民説明会を実施していくと思うが、単にアンケート調査の結果はこうであったというような説明会にするのか。どのような説明会にしようとしているのかを教えてください。 ○ 都市計画マスタープランについては、淡路市の総合計画との整合を図りながら見直すことになると思うが、それと合わせて、今見直しを進めている環境基本計画や、農業振興地域整備計画等の関連計画についても連携させながら、見直しを進めていただきたい。 ○ 農業振興地域の農用地区域については、土地の実態と整合が取れていない土地もあり、荒地になっている土地もある。今後は、農業振興地域整備計画で、農業に必要な土地なのか、農地以外に転用することが望ましい土地なのかを見直す必要があり、それが都市マスとの整合にも関わってくると思う。 ○ テレビで放映されていた全国の各県に対する移住調査によると、1番目は宮崎県で、兵庫県は5番目であった。その中には淡路市に移住したいという方も多く、移住者も増えている。農業委員会に対して、ペンションや個人のセカンドハウスに転用し、夕日の見える豊かな暮らしを北淡路でしたいという問い合わせもあり、実際に転用も進んでいる。農業に関する土地の規制が移住のネックにならないよう整合の取れた計画をつくるべきである。
座 長	○ 都市計画区域の変更は検討する可能性があるのか、住民説明会はどのように開催するのかについて質問があった。この2点について、答えられる範囲で事務局に回答をお願いしたい。
事務局	○ 都市計画区域の変更については、アンケート結果を基に、まずは市内で生じている課題の洗い出しを進めていきたいと考えている。その課題が都市計画の手法で解決できそうであれば、区域編入や規制等について検討する可能性もある。 ○ 住民説明会はアンケートの結果報告だけでなく、各地域で10、20年先に何が必要かについて意見を聞きながら、その地域のまちづくりの方針を決めていきたいと考えている。
委 員	○ 淡路市の漁業は危機的状況にある。温暖化による水温上昇、海に栄養がなくなることにより、イカナゴ漁の不漁が続いている。 ○ そのような状況の中で、漁業者も農漁業協働の取組を進めている。 ○ 漁業者数も40年程前と比べて6割ほどまで落ち込んでいる。淡路市は、観光産業だけに頼るのではなく、第1次産業の活性化をする必要があると思う。淡路市として、第1次産業の活性化にも舵を切っていただけるとありがたい。
座 長	○ 都市計画の視点で、具体的に期待したいことはあるか。

委 員	○ 魚を獲るだけでなく、農業者ともタイアップが必要である。農業組合、漁業組合が一本化する時代もくるかもしれない。 ○ 漁業も景気が良いときは、漁業関連施設の修理等も実施できるが、今は不漁が続き、人もいないので実施することができない状況にある。
委 員	○ 阪神・淡路大震災の時、北淡町の富島に住んでいた。阪神淡路大震災のときは、家屋の9割が全半壊であった。区画整理による復興によりハード面では強いまちになったが、道幅が広がった分、人との距離ができ、コミュニティは希薄になった。 ○ 街区公園や小公園の数も豊富にあり、それは良いことだが、どこの公園に防火水槽があるか等、住民がわかっていない状況であり、整備したものを活かしていない。 ○ 防災・減災も含め、住民同士が顔を合わせることが大事である。祭りやお食事会、球技大会でも何でも良いので、顔を合わせる機会をつくるのが大切である。
委 員	○ 公園の使い方等、ソフト施策については考える必要がある。公園はお花畑等の画一的なイメージがついている中で、どのように各公園のキャラクターをつくっていくのかについて考えていく事はあると思う。
座 長	○ コミュニティが希薄化してきているのは、古典的な都市計画の失敗でもある。今後、土地区画整理事業を進めていくことは想定できないが、人口減少が進む中で、道路拡幅事業を実施するかどうかはケースバイケースであり、地域が豊かになることを前提に考えるべきである。
委 員	○ 当時の北淡町での土地区画整理事業は、市も住民意見を十分聞いてくれていたが、結局完成に14年程かかったしまった。時間がかかった分、事業区域から出ていった方も多く、更地も多いのが現状である。
座 長	○ 整備に費やした時間と市民のライフスタイルの変化が合わなかった結果かと思う。
委 員	○ 淡路市で生まれ育った若者が市を出ていくのが残念である。進学や就職を機に島外に出てしまうと、帰ってこないという状況が続いている。 ○ 昔と比べると淡路市は魅力的になってきていると思う。一方で、観光客目線では魅力的かもしれないが、住民目線では魅力的に感じない。大企業も移転してきているので、観光客と住民がお互いに歩みよっていく方法はないのか考えている。 ○ 移住者の増加は良いことだが、町内会に入らない方も多く、住民同士のつながりが減っているように感じる。高齢者や障がい者等、支援が必要な方も一緒に、お互いに支え合いながら暮らしていくことが淡路市のいいところだと思うので、つながりがうまれるようになると良い。 ○ 山間部の過疎地は、交通面が弱くなっている。山間部は人も少なく、商店も衰退し、住

	みにくい状況になっている。バスも一定の本数はあるが、そこまでいく手段がない。 ○ 移動販売やシルバーカー等の方法もあると思うが、全ての地域でできることではないと思う。どうすれば将来的に住み続けられるかが気になっている。
座 長	○ コミュニティバスの状況や改善策等、もし事務局からあればご発言をお願いしたい。
事務局	○ バスの便数は昔と比べると増えており、10月には洲本まで延長した。海岸線は課題解決に向けて進んでいるが、縦の移動手段は課題であり、改善策についてはこれから検討する。移動手段を地域で運営する等の話もあるが、そのような考え方も取り入れていきながら、検討していきたいと考えている。
委 員	○ 淡路市内でも空き家が問題になっている。県でも空き家の取組は展開しているが、空き家の母数が多いので、大きく事態を転換できるには至っていない。 ○ 移住ニーズも増加している中で、空き家所有者が手放さないという課題もある。空き家の活用を促進させるような動きができれば良いと思う。
	4 市民、事業所意向調査の実施について
事務局	【別紙3の説明】
委 員	○ 市全体では、まちづくり協議会はどれほど設置されているのか。市の課題は非常に複雑で、様々な要素がからみあっているため、横断的な解決が求められている。そのためには、地域住民の参画と協働が必要であろう。
委 員	○ まちづくり協議会の実態としては、補助金を獲得するために協議会を組織しているだけであり、まちづくりを頑張るような動きはない。
事務局	○ まちづくり協議会の定義は難しいが、震災の復興事業関連の組織はあり、公園の清掃等をしていただいている団体はある。震災から30年経つが、まだ継続しており、市としては総会に出席するなど関わっている。
委 員	○ 岩屋地域や長沢地区のコミュニティバスは、旧町の時から地域をどうにかしていきたいという思いでの取組があり、実現に至っている。地域の思いや意見を共有するための場を設定することが必要ではないか。 ○ 行政が都市計画を進めるために当たっても、各地域がどういうまちを目指すのかについて共有するような場が必要であると思う。
事務局	○ まちづくり協議会は、行政側から設立を促進するより、地域のコミュニティが自主的につくるのが本来のあるべき姿であると思う。

委 員	○ 市としてまちづくり協議会の設置が難しい状況の中で、県としての見解はいかがか。
委 員	○ 県とまちづくり協議会とはつながりが無いのが実態である。個別にみると、移住等のテーマでは関連はあると思う。
委 員	○ これまで市に対して他都市の事例等の情報交換ができるコーディネーターの派遣を要請したが、お金がないとの理由で却下されたことがある。 ○ 20年先を見据えて計画を策定するに当たっては、5年の短い単位で社会の価値観やニーズは変わっていくので、柔軟に対応できるような計画を作っていくことが大事である。 ○ アンケートの設問について、より居住地の属性が明確に分かるような設計が必要ではないか。5地域の区分だけでは、具体的に誰が答えたのかが分からないと思う。
委 員	○ 集落が地域活性化協議会等の制度を活用し、市と協働することもある。 ○ 地域の問題意識を捉えるに当たっては、単なる会議形式だけでなく、ワークショップ形式でも進められると良い。 ○ その他、講師等をお招きして勉強会を開催する機会があっても良いと思う。